TAKE FREE
ご自由に
お取りください

羽衣国際大学 Presents

VOL. 5
2026.2

はごプロ！

学生目線でお届けする地域の魅力発掘レポート

プロスポーツのHERO

美術館のHERO

古民家ホテルのHERO

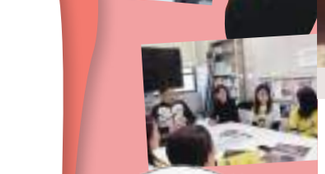
私たちのまちの Hero's interview

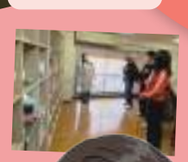
都市農業のHERO

就労移行支援のHERO

はごプロ！見聞記
アルバモス大阪高石選手を
本学学生が栄養サポート！

世界を感じる大学。
羽衣国際大学
HAGOROMO UNIVERSITY OF INTERNATIONAL STUDIES





Kominka Hotel Owner

Proffesional Sports Director

私たちのまちの Hero's interview

あなたに渡したい 明日へのバトン

私たちの身近な 社会・街・暮らし に対し
仕事を通じて影響を与えていらっしゃる
魅力的な人たちを、「地域のお仕事・ヒーローズ」として
インタビューさせていただきました。

語られたお話は どれも興味深くて
ぜひ皆さんにも読んでいただき
身近にいるヒーローたちから渡された
「バトン」を受け取ってもらえれば、とてもうれしいです。

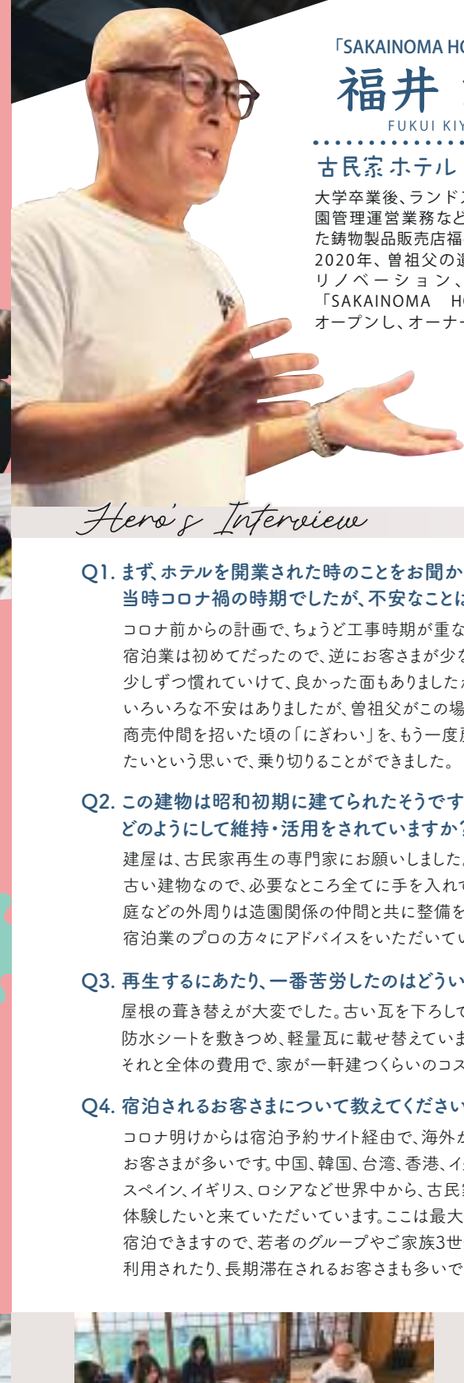
Museum Curator

Urban Agriculture

Work Support Cafe

イラスト：浦西茉桜

曽祖父の想い出ある古民家を再生しホテルとして活用！



「SAKAINOMA HOTEL濵」オーナー

福井 清英さん

FUKUI KIYOHIDE

古民家ホテル のHERO

大学卒業後、ランドスケープコンサルや公園管理運営業務などを経た後、家業であった鋳物製品販売店福井清商店を継承する。2020年、曽祖父の遺した築83年の家屋をリノベーション、一棟貸し宿泊施設「SAKAINOMA HOTEL濵 旧福井邸」をオープンし、オーナーとなる。

「SAKAINOMA HOTEL 濵」
詳細はこちらから

HP　Instagram

「SAKAINOMA HOTEL濵 旧福井邸」は、昭和初期当時の一大リゾート地であった浜寺に建てられた、大阪鋳物商の別邸をリノベーションしたホテルです。※

※SAKAINOMAが展開する「分散型ホテル」という宿泊形態は、近年注目を集めています。これは古民家や空き家を再生活用し、町全体を一つのホテルと見立てる考え方で、宿泊客は地域の飲食店や施設を利用、「まち」を回遊することにより地域活性に結びつけます。

Hero's Interview

Q1. まず、ホテルを開業された時のことをお聞かせください。当時コロナ禍の時期でしたが、不安なことはありましたか？

コロナ前からの計画で、ちょうど工事時期が重なってしまいました。
宿泊業は初めてだったので、逆にお客さまが少なく、
少しずつ慣れていけて、良かった面もありましたね。
いろいろな不安はありましたが、曽祖父がこの場所で
商売仲間を招いた頃の「にぎわい」を、もう一度戻したいという思いで、乗り切ることができました。

Q2. この建物は昭和初期に建てられたそうですが、どのようにして維持・活用をされていますか？

建屋は、古民家再生の専門家にお願いしました。
古い建物なので、必要なところ全てに手を入れてもらっています。
庭などの外周りは造園関係の仲間と共に整備を行い、
宿泊業のプロの方々にアドバイスをいただいています。

Q3. 再生するにあたり、一番苦労したのはどういう所ですか？

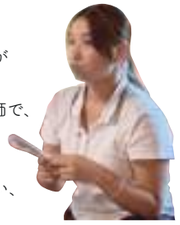
屋根の葺き替えが大変でした。古い瓦を下ろして、土を取り除き、
防水シートを敷きつめ、軽量瓦に載せ替えています。
それと全体の費用で、家が一軒建つくらいのコストがかかりました。

Q4. 宿泊されるお客さまについて教えてください。

コロナ明けからは宿泊予約サイト経由で、海外からの
お客さまが多いです。中国、韓国、台湾、香港、イタリア、
スペイン、イギリス、ロシアなど世界中から、古民家を
体験したいと来ていただいています。ここは最大8名まで
宿泊できますので、若者のグループやご家族3世代で
利用されたり、長期滞在されるお客さまも多いです。

Q5. 外国のお客さまが多いということですが、何か特別な対応をされていますか？

とりたてて特別な対応はしておりません。
日本の古民家ホテルの魅力を外国のお客さまが
「発見」され、ここに来られると感じています。
ありがたいことに、昨年の宿泊予約サイトの評価で、
10点満点中9.8の高評価をいただいています。
実は3年前に、外国のお客様向けマニュアルを
羽衣国際大学の皆さんの先輩方に作ってもらい、
それも活用しています。



Q6. 今後は、どのように発展させたいですか？

まずは来ていただいたお客さまに最大限喜んでいただけるよう、
このホテルの運営をしっかり行っていくことですね。
それと、ここ堺は私の生まれ育った街なので思い入れもあり、
今後は地元の活性化活動にも興味があります。
皆さんのような人の協力で、町おこしが進むことを期待しています。

Q7. 最後に羽衣国際大学の学生にメッセージをお願いします。

もし古い建物やリノベーションに興味があるなら、ぜひ力を借してほしいです。古いから壊すのではなく、活用することで地域が
活性化すると考えています。その時に、
必ず若い人のアイデアやセンスが
必要だと思っています。

本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

Hagopro Impressions ～私たちはどう思ったか～

- 今の時代には無い魅力があり、日本人旅行者にも体験してほしいです。
- 昔の日本家屋の素晴らしさを、現代の快適さの中で感じられるのが魅力です。
- 古民家再生の工夫と、地域との結びつきの大切さを、このホテルから学びました。
- ホテルの魅力を語られる、オーナーの福井さんの情熱に感動しました。
- 中国では、このような古民家利用のホテルは少ないので、とても魅力を感じました。

地元高石を愛する プロハンドボールチームの 熱血監督さん

「アルバモス大阪高石」監督

銘苅 淳 さん

MEKARU ATSUSHI

プロスポーツのHERO

中学・高校・大学での学生競技を経て、2008年、日本ハンドボールリーグのトヨタに加入、日本代表に選出される。その後2012年選抜U-21、ハンブリー・スペインにてプロ選手として活躍。現役引退後、社会人や大学でのコーチを経て2023年、アルバモス大阪高石の創設とともに監督に就任。

「アルバモス大阪高石」詳細はこちらから

HP Instagram X YouTube

「アルバモス大阪高石」は、2023年に発足した高石市を拠点に活動する男子プロハンドボールチームで、日本のトップリーグである「リーグH」に所属しています。

ALVAMOS OSAKA TAKAISHI

チーム名の「アルバモス」は、スペイン語の「ALBA（朝日）」と、仲間を勇気づける掛声「VAMOS（さあ行こう！）」を組み合わせた造語で、誰がにとっての「朝日」になりたいという熱い願いが込められています。

Hero's Interview

Q1. ハンドボール歴と、選んだ理由を教えてください。

14歳から40歳まで、26年間ハンドボールを続けています。中学まで野球をしていましたが、怪我をした時にハンドボールの先生に誘われて始めました。

Q2. ハンドボールの最大の魅力は何ですか？

「全員が攻撃し、全員が守る」点ですね。ゴールキーパーも攻撃の起点になり、7人全員が常にゲームに関わります。仲間との連携を通してチームワークを学べるスポーツです。

Q3. ハンドボールに込める想いを教えてください。

「走る・跳ぶ・投げる・ぶつかる」を活かせるエキサイティングなスポーツです。まだまだ日本では認知度が低いため、特に子どもたちに体験してほしいと思っています。

Q4. 想いを実現するために、高石市から活動を始められた理由を教えてください。

高石で始めたのは、この場所で人とのご縁があったからです。地域との連携が取りやすく、「ハンドボール熱あふれる街」にすることが普及の第一歩だと考えました。

Q5. 具体的には、どのような取り組みをされていますか？

未就学児や小学生向けの「お手軽ハンドボール教室」や、学校への「出張体験会」を行い、楽しみながらハンドボールを体験できる機会を提供しています。

Q6. 子どもたちに教える時に注意されていることはありますか？

お互いを尊重し助け合いながら、チームワークを学べるよう指導しています。

Q7. ファンサービスの一環として、行われていることはありますか？

地域のイベントや祭りに参加して交流を図り、試合でもファンとのつながりを大切にしています。

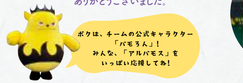
Q8. 羽衣国際大学の学生が力になれることはありますか？

「動画制作」や「TikTok運営」、「チームボランティア」、「食サポート」など、若い感性や専門知識での協力を期待しています。

Q9. 銘苅監督の座右の銘を教えてください。

座右の銘は「君の笑顔がプロティン」。プロティンは、骨量も筋・脂肪など、色々な食品に含まれる大切な栄養素です。笑顔も同様に必要不可欠で力を与えてくれるものです。大好物は、子どもの頃に母が作ってくれたアップルパイ。もし結婚相手が、アップルパイを作ってくれたら、とてもうれしいですね。

本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。



日本画の美しさを伝える 羽衣にある小林美術館の 学芸員さん

「小林美術館」学芸員

福岡 この実 さん

FUKUOKA KONOMI

美術館のHERO

大学卒業後、大学院において芸術学を専攻し、学芸員資格を取得。博物館勤務を経て小林美術館に学芸員として入職し、現在に至る。

館長の小林英樹さん

「小林美術館」詳細はこちらから

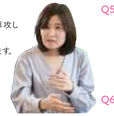
HP LINE X Facebook Instagram

小林美術館は、文化勲章を受章した日本画家39名（当時）全員の作品を収集するという、小林英樹館長の理念のもと2016年に開館しました。横山大観、上村松園、竹内栖鳳といった、著名な作家の作品が多数収蔵展示されています。

Hero's Interview

Q1. 福岡さん自身について教えてください。

高校生の頃から美術館が好きで、大学で芸術学を専攻し学芸員の資格を取得。前職はオルゴール博物館で、4年前にこちらに移り学芸員をさせていただいています。もともと油絵が好きだったのですが、小林美術館で仕事をさせていただくようになってから、日本画の素晴らしさに気づくようになりました。



Q2. 外国からのお客さまは多くこられますか？それと美術館を通じて、国際交流などされていますか？

外国のお客さまは、とても少ないですね。国際交流については、大阪府の外国人旅行者向けサイトに当美術館を掲載していただき、そこから予約されたお客さまには、通訳付きガイドさんと来館していただいています。

Q3. 福岡さんが考える日本画の一番の魅力は何ですか？

一言では難しいのですが「余白」があることです。何も描かれていないことが、すごく良いなと感じます。油絵はぎっしり描かれ埋められますが、日本画は逆にあっさりしていて、描かれていない余白に無限に広がる空間を感じ、そこに魅力を感じます。

Q4. 収蔵されている作品で、おすすめを選ぶとしたら、どの作品を選びますか？

一つ目は、横山大観先生の富士山を描いた「霊峰」という作品で、作者の持つおおらかさがにじみ出ていると思います。二つ目は、上村淳之先生の「セイタカシギ」で、私の考える日本画の「余白」の美しさを感じる作品です。

横山大観作「霊峰」

Q5. 地域の子どもたちに対して、何か取り組みをされていますか？

子ども向けではありませんが、実際に絵を描いてもらうワークショップを開催しています。基本的に成人向けですが、小学生くらいのおささまでも親御さんと一緒に参加できます。開館5周年には夏休み中、小・中学生は入館料無料にしていました。少しでも日本画に興味をもってもらい、観に来てもらえたらうれしいです。

Q6. 学芸員をされていて、一番大変なのはどんなことですか？

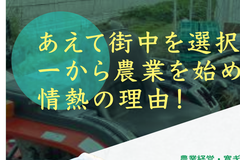
美術好きで知識の豊富なお客さまの対応が難しいですね。私なりに説明させていただくのですが、自分の勉強不足で答えられなかったりすることがあります。でも、そこが大変でもあり、楽しいところでもあると感じます。

Q7. 羽衣国際大学の学生が力になれることはありますか？

専門的なことを学んでいる、学生さんや留学生さんが、たくさんおられるので、当美術館のパンフレットなど、学生視点で何か一緒に作れたら面白いですね。

本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

あえて街中を選択し、 一から農業を始めた 情熱の理由！



農業経営・賃ぞ処「Log Out」店主

中野 哲哉 さん

NAKANO TETSUYA

都市農業のHERO

サラリーマン生活を経て、高石市内において都市農業で独立。それと並行し、農作物の有効活用や食品ロスを意識した飲食店を経営。

賃ぞ処「Log Out」詳細はこちらから Instagram

中野さんは、2010年にサラリーマン生活を経てから、33歳で高石市内で「都市農業」を始められました。

※「都市農業」は、市街地やその周辺で行われる農業のことで、農作物の供給だけではなく、防災、環境保全、教育、交流など、地域において多岐にわたる機能を持っています。

Hero's Interview

Q1. サラリーマンを辞めて農業を始めた理由を教えてください。

サラリーマン時代に、引っ越した一軒家の庭で作った野菜を「おいしい、おいしい」と、子どもが食べてくれたんです。その後、高石の市民農園を借り、家族全員で土をいじるようになると、さらに農作業が面白くなりました。当時、自分自身の将来に疑問があった頃で、その時に日本の農業の衰退のニュースを見て、思い立ったのがきっかけです。

Q2. 農業に転職するときの不安はありましたか？また、その時に感じた気持ちを教えてください。

もちろん不安はありましたし、まず収入が激減します。当時、奥さんに相談したら、「やめてください、それは無理です」と言われました。（笑）始めてすぐは売る作物もないので、アルバイトをしながらの生活でしたね。でもね、この国で農業が無くなるどメジャーやないですか!? お米が食べられなくなるじゃないですか! だから誰かにじゃなく、自分がやらなければという使命感がありましたし、でも、全然つらくはなくて、面白くてワクワクするなと思っていましたね。

Q3.「やりたいことを仕事にする」アドバイスをお願いします。

人に何を言われても実行に移すことが大事ですね。農業をやりたいと言うと、「お金になるな」とか「生活ができない」とか言われましたが、自分なら絶対実現できるんだ、という強い思いだけはありました。どこかにネガティブな思考があると、安心安全な場所に向かいがちですが、自分がワクワクすることに進むのも、一つの方法だと思います。

Q4. 高石で農業を始めようと思われたのはなぜですか？

農地を探していた当初は、奈良や兵庫から声がかかりましたが、できれば今まで暮らしていた地元でやりたかったんです。高石も農地が減っているのですが、私は地方の農家さんとは違う方法で、「都市農業」をやってみたいと考えていました。そんな時、この土地のオーナーさんと出会う縁があったんです。

Q5. 都市農業で近隣に対し、気をつけていることはありますか？

まず自分の人柄を知ってもらうことだと思います。雑草対策にヤギを飼っていますが、その鳴き声も騒音になるんですよ。けれども、人との繋がりを大切にし、交流を深めていくことで、鳴き声も騒音ととらえられなくなります。今ではうちのヤギも近くの小学校の生徒さんや、ご近所の方々に、とても可愛がられているんです。

Q6. 農家が抱えている問題について、お聞かせください。

物価高でモノの値段が上がる中、農作物も例外ではありません。原因は様々ですが、なぜ価格が高騰しているかを理解してもらいたいですね。いまだに農作物の価値観が昔のままなのには、疑問があります。

Q7. 中野さんにとっての仕事のモットーは？

土を見るのが好きで、土の音が聞こえる時が一番うれしい、本当に私ができるのは下準備のみ、あとは作物が自分でかってに成長してくれます。

Q8. 何か私たちにできることはありますか？

おいしい野菜や果物を、いっぱい食べてください。

本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

「私たちのカフェを通じて、 みんなに伝えたい！

特定非営利活動法人「児友館」代表理事

小川 貴子 さん

OGAWA TAKAKO

障がい者支援のHERO

結婚後、子育てをしながら大学で福祉を学び、現在障害者住。様々な障がい者支援活動を経て、現在は、障害福祉サービス事業所の管理者及びサービス管理責任者として活動中。

「リイムカフェ」店長

池田 英恵 さん

IKEDA HANAE

就労移行支援のHERO

学生時代に音楽を学ぶ中、生きづらさを感じる時期を経験。上京し結婚・出産を経た後、堺に戻り、自身の経験と音楽の学びを生かし、カフェ運営を通じて障がい者の就労支援に携わる。

「リイムカフェ」は、高石市で障がいを持つ方の就労移行支援事業を行っているカフェです。

「リイムカフェ」詳細はこちらから

HP Instagram

♡カフェの2階にはシェア型書店「たまて箱」♡
ここは、本好きがオーナーになり、本棚を1コマずつ有料で借りて、好きな本を陳列しています。
オーナーさん達の、人柄や個性が見える場所です。

Hero's Interview

Q1. どうして、このカフェを始めようと思われたのですか？

（小川 理事長）私は長い間、障がい者福祉の仕事に携わり、同じ高石市内で「就労継続支援B型・リイムワークス」を運営しています。そんな中、彼らの次のステップとして、就労移行支援となる「カフェの運営」に可能性を感じ、一昨年お店を立ち上げました。

Q2. なぜカフェで就労移行支援を行おうと考えられたのですか？

カフェは年齢性別に関わらず、色々な方が来られますよね。その中での仕事を通じ、人と接し働くことで経験値が上がり、その後の就労にも良い結果につながると考えています。

Q3. この場所にカフェを作ろうと思われたのはなぜですか？

（池田店長）最初からこの場所と決めていませんでした。実は物件探しには苦労し、自的が就労移行と合伝えると、契約していただけないことが多かったです。ここはマンションの1階ですが、オーナーさんからOKをいただいた後、自治会での賛同を得るには、それなりの時間がかかりました。でも、全然つらくはなくて、面白くてワクワクするなと思っていました。

Q4. オープンするまでに、ご苦労はありましたか？

ここは長い間使われていなくて、掃除と片付けだけでも大変でした。実はこの床は私が塗り直したんですよ！ すごいでしょ（笑）。それでも、オープンするワクワクが、苦労よりも勝っていましたね。

Q5. どのようなお客さまが来られますか？

いろいろな方が来られますよ。一人ぞくつろがれる方、私たちスタッフとのおしゃべりが目的の方、本当に普通のカフェと同じです。この前、育児で悩みのあるお母さんが来られ、いろいろお話したのですが、帰り際に「元気が出たわ！」って言ってもらえたのがうれしかったです。

Q6. このカフェで働く障がい者への思いを教えてください。

お店の看板に「就労移行支援」とは、一切書いてありません。働いてお給料を頂く、ごくあたり前のことをやってもらいたいだけです。ここでは飲食業の基本を学んでもらいますが、仕事を通じた経験で自信をつけてもらうのが、このカフェの一番の目的なんです。

Q7. 店長さんは理事長さんのことをどう思われていますか？

実は私たち、本当の親子なんです。（一同驚く）もともと音楽を勉強していて、その後結婚、子どもが生まれて神奈川で暮らしていたんですが、母から「カフェをオープンする」と聞いて、だんな様を残して子どもといっしょに来ちゃいました（笑）。小さな頃からお母さんの仕事に対する姿を見て育ったので、そこはかなり影響を受けています。母のことは、尊敬しています。

Q8. リイムカフェの将来の夢は何ですか？

ここでの経験を活かし、いろいろな仕事や場所で活躍でき、社会的に自立した人を増やしていきたいです。

Q9. 羽衣国際大学の学生に何かできることはありますか？

（小川 理事長）そうですね、羽衣の学生さんに限らず、若い人にもっと社会の現状を知ってもらいたいです。まだまだ間違った先入観で見られることが多いので、やはり正しい情報に触れてもらって、SNSを使用するなど、新しいやり方で広めてもらえれば、うれしいです。

本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

Hagapro Impressions ～私たちはどう思ったか～

- 普及のために行われている、体験会やイベントの意義深さを知りました。
- プロのハンドボールチームがあって、それが地元にあることに驚きました。
- 銘苅監督のセンスのある話ぶりと、とても印象的でした。
- 健康な身体作りには、食事が一番大事なことが改めて分かりました。
- ぜひ一度、目の前で試合を観てみたいと思いました。

Hagapro Impressions ～私たちはどう思ったか～

- 福岡さんのわかりやすい説明を聞いて、もっと美術館に行きたくなりました。
- 日本画と西洋画の違いや、余白の持つ意味を教えてもらい、日本画が好きになりました。
- 説明をいただいてから作品を観ると、余白の無限に続きそうなイメージが伝わってきました。
- 作品をガラス越しではなく、生で間近に観られるステキな美術館だと感じました。
- 今まで知らなかった、美術館の学芸員さんのお仕事がわかって興味深かったです。

Hagapro Impressions ～私たちはどう思ったか～

- 現在の経済に照らした農業のお話を聞いて、野菜や果物はけっして高くはないと思いました。
- 大変な思いで育てられた作物を大切にしない、食品ロスを問題にするべきだと感じました。
- 農業を仕事にされている人たちへの、感謝の気持ちがわいてきました。
- 中野さんが苦労されている、畑の雑草取りを手伝いたいと思いました。
- 野菜や果物など、農作物に対する消費者の価値観が変わってほしいと思いました。

Hagapro Impressions ～私たちはどう思ったか～

- 羽衣に、こんな素敵なカフェがあるというのを知らなくて、びっくりしました。
- 店長さんやスタッフさんが、とても温かく感されました。また行ってみたいと思いました。
- お店に置いてあるコースターや小物が可愛くて、思わず欲しくなりました。
- この時代にとても大切な場所です。このカフェのような所がもっと街に増えればいいなあ。
- 知ること、伝えることの大切さを、改めて感じ学ぶことができました。ありがとうございます。

はごプロ！ hagopro kenbunki 見聞記

アルバモス大阪高石選手を本学学生が栄養サポート！

本文でもご紹介したプロハンドボールチーム「アルバモス大阪高石」は当学校法人羽衣学園とパートナー協定を締結しています。(スポーツ・教育・健康増進などの分野で連携しながら地域活性化に取り組んでいます。)

その一環として、羽衣国際大学人間生活学部食物栄養学科准教授・恵美 真子先生(管理栄養士と公認スポーツ栄養士)の「卒業研究」では、ゼミの学生たちがアルバモス大阪高石の選手一人ひとりにヒアリングをしながら、増量のための栄養サポートを実践。

昨年７月には選手を大学へ招いて、学生たちが調理した「増量の理想の献立」の昼食会を開催。選手たちのポジションや体格、生活習慣や食の好みを考慮して個別に栄養指導をしました。

ゼミ生は、この成果を卒業論文にまとめた後は、管理栄養士を目指して、国家試験を受験します。

肉と魚の主菜に緑黄色野菜もたっぷり！

ゼミ生と選手たちの笑顔があふれる「栄養指導」のようす

恵美先生(左端)とゼミ生。

選手への栄養指導は練習場所の体育館でも。

栄養価計算の結果をフィードバック。

昼食会にて。自身の必要量のご飯をよそう選手たち。

What's about HAGO-PRO?

はごプロ！とは

はごプロ！は羽衣国際大学の学生が地域の団体や企業の方々と共に地域社会に貢献するための科目「プロジェクト演習」を通じて発刊しているフリーペーパーです。大学周辺地域の歴史やワクワクするスポットを、学生メンバーが「はごプロ！取材班」として取材し、学生目線でその魅力を発信しています。学生たちが発見した地域の魅力を感じていただき、是非この地に足を運んでいただけましたら幸いです。

現代社会学部 現代社会学科 准教授　**古谷 昌重**

はごプロ！VOL.5

高師浜・羽衣周辺地域紹介フリーペーパー
羽衣国際大学 プロジェクト演習2025年度後期

2026年2月発行

編 集　はごプロ！vol.5 取材班
印 刷　真生印刷株式会社
発 行　学校法人羽衣学園　羽衣国際大学
〒592-8344
大阪府堺市西区浜寺南町 1-89-1

はごプロ！vol.5　取材班メンバー

浦西 茉桜、于 筱蔓、馬 銘鴻、陶 嘉杰、寺崎 夏未、伊志嶺 采玲、布川 ちひろ、田中 愛海、三浦 麻彩、PYO SEOHYUN、KOO SEUNGJUN、岡田 祐里佳、中村 健太、村上 実穂、坂本 玲太

指導　現代社会学部　准教授　古谷 昌重

取材協力　(敬称略)

SAKAINOMA HOTEL 濵（旧福井邸)、アルバモス大阪高石、小林美術館、Log Out、リイムカフェ

プロジェクト協力

真生印刷株式会社　堺・泉州地域プロジェクト
鳥羽 博司、網本 由、静 幸穂、上林 紗奈

用紙協賛

新生紙パルプ商事株式会社